

平成 28 年度 南信教育事務所だより

教学半也

教えるは 学ぶの 半ばなり

仙丈ヶ岳(南アルプス)

第 7 号 2 月 17 日 (金)

目 次

- 1 少人数を生かした授業
- 2 学校の組織文化の構築
- 3 学力向上に向けて
- 4 研修会報告

1 少人数を生かした授業

英語

個のよさや個性を生かした意図的なグループの構成

31名の少人数学級。3～4名のグループに分かれて more や most を含む比較表現を使った英文を書く活動。内容は「名前の人気ランキング」

A 生：1位の「エマ」は、most を使って Emma is most popular name in America. でいいよね！①次の2位の文はどうする？

(グループで相談しながら活動を進め、4つの英文を書く)

A 生：4つできたから、発表する時は②一人一文ずつ分担しよう。

B 生：(C 生の英文と比べて、自分の英文には the が無いのに気付いて) あれっ。ここ the いるんだっけ？

C 生：うん。③一番の時だから、most の前に the がいるよ。

A 生：(グループの英文に the を加え、Emma is the most popular name in America. に修正する)

A 生は、相談や提案(下線①②)を、自分から他の生徒へ投げかけています。B 生の疑問を文法が得意な C 生が受け止め、根拠(下線③)を示して考えを述べます。

○先生は、「学び方や関心・意欲」「文法や語彙の習熟度」などの個のよさや個性を見極め、意図的にグループのメンバーを決めています。このことで、自然に学び合う学習が進んでいます。

少人数だからこそ、グループ学習を活性化させることが必要です。

授業研究会でも、参観した他教科の先生から「なるほど。だから、○○くんと△△くんが同じグループなんですね。」と納得の声が上がりました。教科指導が学級づくりにもつながっています。(赤穂中学校の実践より)



工夫1 毎時間「指導案構想メモ」を作成（A4版1枚）

○メモの内容⇒「ねらい」「板書計画」「座席表」

- ・「板書計画」…板書計画の他、時刻や指名計画、主な発問等も記入。
※座席表（子どもの実態）から板書計画を立てる。
- ・「座席表」…予想される子どもの反応を記号化して記入。
- ・パソコンでフォーマットを作っておき、短時間で記入。



○少人数だからできること

- ・つける力が明らかになっているため、授業中、一人を丁寧に評価できる。
- ・予想した子どもの反応と、本時の実態とのずれを分析しながら、授業を進めることができる。（ずれ→次の授業構想に生きる）

工夫2 「学習問題」提示直後の個人追究で、つまずきを発見

○授業導入場面

- ① 「学習問題」提示後すぐに「2分間一人で考えよう。」と伝え、子どもは、個人追究開始。
- ② 全体の様子を正面から、約1分間、じっくり観察。
- ③ 子どもたちの中に入り、記述内容やつまずきを短時間で把握。
- ④ 全体で、つまずきをもとに「学習問題」の確認。
- ⑤ 困っていることや追究方法を問いかけながら、「学習課題」を設定。



○少人数だからできること

- ・個人追究の場面で、個のつまずきが把握しやすく、その手立てを明確にして、きめ細かく丁寧に対応できる。

○学習問題直後の個人追究のよさ

- ・「学習問題」に対する説明が最小限である。
- ・子ども達は、興味・関心が高まり、その意識が途切れない。
- ・問われていることや子どもの困難点、つまずきが明らかになる。

S先生は、少人数であるため「工夫1」を、短時間で正確に作成し、授業前から一人一人に関わっています。

また、「工夫2」の設定により、子どもの実態に寄り添ったきめ細かい指導も行っています。

子どもたちは、主体的に課題を把握し、授業者の丁寧な指導・支援により、数学の見方・考え方を高めています。
（中洲小学校の実践より）

社会

その子の考えを把握した意図的な教師の出

(中1「世界の諸地域～北アメリカ州」)

本時の学習問題「アメリカは農産物を大量生産するために、どんな工夫をしているのか」について、施設設備に着目したR生は、M生とペアで追究を始めます。



M生：これだ！（Y先生が準備した資料からセンターピ
ボット式のかんがい施設の写真をR生に見せる）

R生：これも工夫に入るの…？

Y先生：（R生のつぶやきを少し離れて聴いている）

M生：入るでしょ。（農業従事者数の資料を示す）

アメリカは100haで1.6人めっちゃ少ない。

R生：ほんとだ。（資料を自分の手に取って見る）

こういうの使うことで少なくて済むってこと？
（考える）…あぁ、そういうことか…。



Y先生は、R生の疑問に対して、あえて口を挟みません。それは、共に追究しているM生が、他の追究資料に着目し始めており、そこから日本との比較という視点を持ち自ら追究していけるという見通しがあったからでした。そしてR生は、M生とのやりとりから『アメリカは農業従事者が多いけれど、1つの場所にいる人の数は日本より少ない』と、資料から分かったことを書いていきました。

M生：これ（かんがい施設）、1haあたりの農業従事者が
少ない根拠になるよね。（別の根拠も探す）

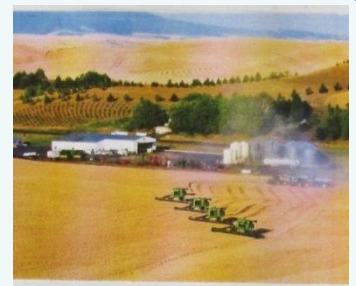
R生：この小麦を刈る機械は？（写真を示す）

M生：日本も使ってるっちゃあ、使ってるから…。

Y先生：（少し間を置き）**日本のと何か違う？これ家ね。**

M生・R生：えっ！機械でかっ！機械めっちゃでか！

R生：そうか、大きな機械を使って面積が広い部分をすばやく刈ることができるようにしてるってことか！



Y先生は、日本の農業用機械の大きさとの違いに気が付けなければ、ねらいにあと一步迫れないと判断し、ただ一言、R生たちに問いかけました。その言葉をきっかけにR生は学習カードに『大きな機械や人数を工夫してより効率的に多くの農産物がとれるようにしている』と大型機械を用いることの意味まで自分で解釈し、まとめていくことができました。

少人数であるがために、教師はよかれと思って“教え過ぎ”てしまうことがあります。しかし、少人数だからこそ、あえて教えずに、その生徒にとって本当に必要な時に教師が出る。それが、生徒の主体的な学びにもつながっていきます。

(根羽中学校の実践より)

2 学校の組織文化の構築 (その6)

各号で学校組織文化について紹介してきました。まとめます。

1 学校の組織文化とは

先生方の

・学びの専門家としての心得 ・学び合い高め合う関係性 ととらえる。

2 雰囲気

まずは、授業のことを楽しく話せる、笑いが絶えない、そういう雰囲気をつくる。その関係性の中で同僚性が高まり、授業研究の質も高まり、研究と日常の授業がつながっていく。

3 形あるものに

組織文化は、職員全員で形あるものにしていくことができる。

4 伝承される

教えられた若手がさらに若手へと教えが伝えられていく。大事なことは人から言われてやっているのではなく、当たり前なこととして伝承されているということ。

学校訪問をしたときに感じる「その学校の雰囲気」があります。

言葉ではうまく表現できませんが、「いいなあ」と感じる雰囲気です。

例えば、廊下に飾られた花、子どもの作品・掲示物、すれ違う子どもや先生方のあいさつ。あるいは授業中、学習プリントを後ろの子へ手渡すとき、受け取る子が「ありがとう」と言葉を交わす、級友の発言に心と体を向けて聴く、子ども同士の関係性。

この雰囲気は、先生方の学び合い高め合う豊かな関係性がつくられていることと密接につながっています。そしてそれは子ども同士の関係にも影響しています。

すでに各学校では新年度の準備が始まりつつあると思いますが、学校組織文化の質的向上を図っていく取組に期待をして特集を終了いたします。

3 学力向上に向けた授業改善 ～中学校数学科の指導の改善～

全国学調問題 A 3(2) (C 調査中学 1 年数学【6】) は、一元一次方程式の解の意味を理解しているかどうかをみる問題です。この問題の結果から、今後の授業で大切にしたい取組を紹介します。

【6】 一次方程式 $2x = x + 3$ の左辺と右辺それぞれの x に 3 を代入すると、次のような計算をすることができます。

$2x = x + 3$ について $x = 3$ のとき、	
(左辺) $= 2 \times 3$	(右辺) $= 3 + 3$
$= 6$	$= 6$

このとき、この方程式の解についていえることを、下のアからエまでの中から 1 つ選びなさい。

- ア この方程式の解は 6 である。
- イ この方程式の解は 3 である。
- ウ この方程式の解は 3 と 6 である。
- エ この方程式の解は 3 でも 6 でもない。

全国学調の反応率

ア：30.9%

($x = 3$ を代入して出てきた式の値が解と混同したと考えられます。)

イ：44.8% (正答)

⇒ C 調査では 43.0%

となっています。

結果から見えること

全国学調 A 問題 3(1) 「一次方程式 $x + 12 = -2x$ を解く」の正答率が 70% であることから、「方程式を解くことはできても、その解の意味が理解できていない生徒」が相当数いると考えられます。

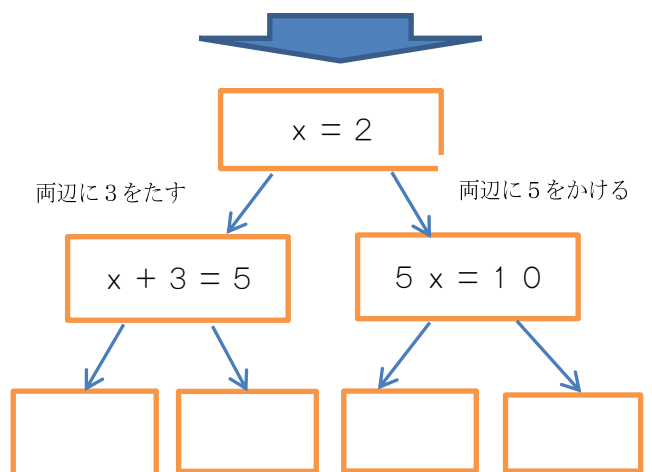
具体的な指導例として

まず「方程式 $x + 3 = 5$ 」を「 x と 3 の和は 5 に等しい」と捉えます。さらに「変数 x が満たす条件」について、「 $x = 2$ 」が唯一満たすという解の意味を考える場を設定します。

具体的には、 $x = 2$ をもとにして“方程式をつくる”学習活動を仕組みます。「いろいろな方程式ができてその方程式を満たす文字の値はすべて 2 である」ことを捉える場を位置づけます。

問題例

$x = 2$ を一番簡単な方程式として、少しずつ形を変えていろいろな方程式をつくらう。



4 研修会報告

道徳パワーアップ研究協議会

子どもの発言が変わらないと感じたときは…

「ピエロっていい人過ぎないですか？（私がピエロの立場なら）サムを許せない気持ちになるんですが…」

「だからこそ今日のような中心発問で、ピエロの気持ちの変化を考えさせることに意味があるんじゃないかなあ」

「だけど、やっぱりサムは許せない。もし子どもがそう発言したら、どう評価するんだろう」

模擬授業後のグループ協議では、上記の会話がありました。

「だけど」「やっぱり」と子どもの考えが変わらない時があります。

こんな時は考えが変わらない理由を問い返してみましよう。「サムのよさもわかるけど、約束を守らないことをぼくは許せない」「ピエロのように広い心を持ちたいけど、サムは自分勝手過ぎるから私は許せない」など、自分との関わりの中での考えを引き出せます。

発言の意味や理由などの問い返しにより、変わっていないと思える発言でも、その裏にある道徳的価値に関わる見方がわかります。その見方をもとに、「サムのよさもわかる」という相手の良い面も認めようとする発言や、「広い心を持ちたいができない」という道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え考えようとする発言を評価していくことができます。



【参加者の感想】

模擬授業での役割演技の前半部分と後半部分で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと変化する様子がよくわかって自分でもびっくりしました。評価について、子どもがどのような気持ちになっていけばいいかを実感することができ、評価の仕方について方向が見えてきたような気がします。